

少年消防クラブニュース

創刊号

発行/ 財団法人 日本防火協会
 〒105-0001 東京都港区虎ノ門2-9-16
 (日本消防会館内)
 TEL 03(3591)7121
 FAX 03(3591)7130
 http://www.n-bouka.or.jp
 (季刊・年4回発行)

印刷/株式会社 近代消防社

少年消防クラブの新たな発展を目指して

少年消防クラブ活性化推進会議



少年消防クラブの歴史は、昭和25年12月、当時の国家消防庁(現総務省消防庁)の通知から始まります。そこから数えて、今年(平成22年)は60年目、人間でいえば還暦という節目の年に当たります。その記念すべき年に、重点支援を行う「モデル少年消防クラブ」を新たに選定し、その活動状況をこの「少年消防クラブニュース」でお知らせすることとしました。

少年消防クラブは全国で5,095クラブ(平成21年5月1日現在)を数えます。また、約43万人(同)がクラブ員として活動し、1万4,528人(同)の方々に指導に当たっていたり、多様なクラブ活動が展開されています。

一方で、現在、我が国の地域社会を取り巻く環境は大きく変化し、少子高齢化に伴う人口減少や地域コミュニティの弱体化、住民意識の変化などを反映して、地域においては、災害に強い安全安心な社会をつくるために総合的な防災力の向上など新たな課題も生じています。

こうした課題の解決を図るには、将来の地域防災を担う人材の育成につながる少年消防クラブ活動の一層の活性化を図ることが必要不可欠であります。さらに、この活動は青少年にとって貴重な人生経験の機会となることも期待されます。

このような考え方のもと、私たちは、昨年7月、青少年消防活動の先進地ヨーロッパのチェコ・オストラバで開催された「青少年消防オリンピック」に、全国の少年消防クラブから選抜された中高生20人と指導者を派遣しました。また、本年1月には、少年消防クラブ活性化推進会議(委員長・秋本敏文(財団法人日本消防協会・財団法人日本消防協会)を設置し、総務省消防庁、文部科学省、全国市長会、全国消防長会など関係省庁・団体のほか学識経験者や消防実務者、教育関係者などにも参加していただき、少年消防クラブの活性化を進めています。

同会議では、この4月、実践的な活動を取り入れるなど積極的な取組みをしようとするクラブを全国から募集し、55のクラブを「モ



少年消防クラブへの期待

総務省消防庁国民保護防災部
 防災課長 横田 真二



「少年消防クラブニュース」の創刊おめでとうございます。「少年消防クラブニュース」を通して少年消防クラブの活動が一般の方に幅広く紹介されることは、少年消防クラブ活動の発展に大きく寄与するものと考えます。また、このことを通じて全国の少年消防クラブ活動の情報が共有されることは非常に有益なことであり、少年消防クラブ活動に携わる皆様には、こうした情報をぜひ今後の活動につなげていただきたいと思います。

少年消防クラブは、現在、全国で5千を超えるクラブが組織され、40万人を超えるクラブ員が活動しています。少年消防クラブ員のうち、小学生のクラブ員は全体の約7割を占めており、消防職員、消防団員、地域の方々に加え、多くの小学校教員が少年消防クラブの指導員として活躍されています。こうした小学生の少年消防クラブ活動は、子供のころから防火・防災に関する意識付けを行い、将来の地域防災の担い手を育てる基盤的活動として非常に有効であり、こうした活動が継続的に行われることが重要です。少年消防クラブ、消防機

少年消防クラブニュースの創刊に寄せて

文部科学省スポーツ・青少年局
 学校健康教育課長 松川 憲行



「少年消防クラブニュース」の創刊、おめでとうございます。学校における安全教育は、子どもたちが自分や他人の生命を尊重し、日常生活全般における安全のために必要な事柄を理解し、生涯を通じて安全な生活を送ることができるよう態度や能力を養うことをねらいとしており、生活安全・交通安全・災害安全のそれぞれが重要な分野で行うことが重要です。特に、子どもたちの安全を確保するためには、子どもたちが自身が危険を予測し、危険を回避する能力を養成するような実践的な安全教育を推進していくことが必要です。また、こうした学校における安全教育は、子どもたちの発達段階を考慮して、学校の教育活動全体を通じて適切に行うことが必要です。

このため、文部科学省においては、学校安全の教師用指導参考資料「『生きる力』を大きくむ学校での安全教育」及び「『生きる力』を大きくむ防災教育」の改訂や、教職員向けの安全教育DVDの作成配布、

防火教育教材の作成などに取り組むとともに、防犯教室・防災教室・交通安全教室の講師となる教職員等を対象とした講習会、心肺蘇生法の実技講習会等を実施しているところです。

こうした中、昭和25年から子どもたちに火災予防だけでなく防災全般にわたる普及啓発活動が続いている少年消防クラブの活動を一層活性化させるため、「少年消防クラブニュース」が創刊され、国内外の各地の少年消防クラブの活動、少年消防クラブに関する国や地方の動向などが紹介されることとなると伺っています。

これにより、少年消防クラブ間のネットワークがより一層強固なものとなり、それぞれの少年消防クラブの活動のさらなる活性化が図られ、ひいては子どもたちが自ら安全に行動し、他人や社会の安全に貢献できる資質や能力を育成することにつながっていくことを願っています。





昭和60年結成された富丘少年消防クラブは、4月25日準指導者を含むクラブ員総数36名で今年度の活動をスタートしました。

「規律訓練」後、5、6年継続して実施している「ムロ開け」の活動を行いました。昨年11月末、畑に掘ったムロに備蓄した食糧が災害時緊急食料として十分に活用できること、そしてムロに適している野菜や果物は何かを今年も学び、体験しました。また、5月5日、春の火災予防運動の

今年で設立15年を迎えます。当クラブは、人口3万2,000人、8,100世帯の札幌ドームがある丘陵地帯を管轄区域に持ちま



今後の活動にも彼らのパワーに大いに期待しているところです。

当クラブの特徴は、ボランティア活動が多く、定期的に自分たちが通学している学校(2校)周辺の清掃、雪解け時期の国道歩道のゴミ拾い、年2回の防火水槽の草刈り、赤い羽根街頭募金と秋の火災予防運動に関する防火の呼びかけ、また、北海道特有の事業になりませんが、消火栓の除雪、独居老人宅避難路確保のための除雪、YOSAKOIソーランまつり及びさっぽろ雪まつり会場での清掃等、たくさんボランティア活動を実施し、地域住民の方々にも大変喜ばれています。

一環として「防火ボード作成」も行われました。

中高生の準指導員とクラブ員が協力し、防火標語・イラストを書いた畳3枚ほどのボードを地域の出張所壁に貼り出し、皆さんに防火を呼びかけるもので1年に1度の大きな活動です。

なお、当クラブでの準指導者の存在は、その活躍とともにとても大きなもので、規律訓練の指導から一泊研修時の企画・実施等その年齢に応じて対応してもらっています。



みに行っているのが「一泊研修旅行」です。年1回実施していますが、クラブ員からは、好評のせいか回数もしくは回数を増やしてほしいとの要望があります。

これからも、当クラブの標語である「すべてのものに優しく ボランティア精神で！」をモットーに活躍してまいります。



主な活動ですが、地域への防火啓発活動、規律訓練の他、災害時を想定した人命救助活動及び放水訓練の模擬体験訓練等を実施しています。

昨年実施した体験訓練としての人命救助訓練では、消防署救助隊の指導のもと行い、地上高さ1メートルに張ったロープを最初は緊張きみでどこちなく渡り回を重ねる度に要領を覚え率先的に挑戦し、「一人がみんなのために」みんなが一人のために「クラブ員同士が励ましあい学びました。また、放水消火活動体験では、一瞬にして家族の財

当クラブは平成7年7月に発足し、札幌市東区において活動しています。



産・尊い生命が失われる火災の恐ろしさの話を聞いたあと、子供用防火衣に着替えて消防士と力を合せて真剣に取組みました。

これらの活動を通じて私たちクラブ員は、これからも常に問題意識を持ち、様々な災害に対応して活動できるように、また、地域に愛される「川沿少年消防クラブ」を目指して努力していきたいと考えております。

今年度はクラブ始まって以来、初の中学生クラブ員が加わった活動になりました。今までの活動はもちろん、新しいことにもどんどんチャレンジし、より一層地域から注目される少年消防クラブを目指してまいります。

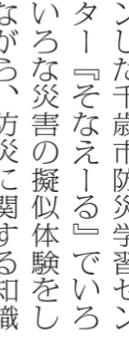
千歳市には、千歳市少年消防クラブ育成連絡協議会があり、真々地少年消防クラブは、昭和52年8月20日



クラブ員は小学4年生が4人、5年生2人、6年生5人、中学1年生4人、2年生2人、そして指導者6人の計23人で構成されています。このうちの中学生6人は一昨年と今年に小学校を卒業したクラブOBです。なぜこの少年消防クラブに残り、継続して活動しようと思ったのか話を聞いたところ、「学校生活において、整列時の素早い行動や姿勢を先生に褒められた。」また、「中学校でキャンプを行ったときに、テント張りでロープ結案が生かされ、周りから注目を浴びた。」等でした。この様に少年消防クラブでの訓練が色々な場所で生かされ、そして子どもたちの「自信」や「やる気」につながっていることは、私たち指導者にとっても大変嬉しく、子どもたちの成長に携われることを誇りに思っています。

協議会は、現在14クラブが活動しており、夏休みには、スポーツ大会、秋の市民火災予防運動期間中に体験学習、12月に火災予防席書大会、歳末には、火災予防夜回り、1月は、消防出初式への参加など、1年を通して活動を行っています。

では、協議会が発行する「いくせいきょうニュース」を年2回発行しクラブ員全員に配布しています。今後の活動予定は、「防災マップの作成」、「消防活動体験」、「救急救命講習」、そして今年度オープンした千歳市防災学習センター「そなえーる」でいろいろな災害の疑似体験をしながら、防災に関する知識や災害が発生したときの行動を学習する予定です。



真々地少年消防クラブの活動は、火災予防の勉強会、町内会体育大会、雪中運動会、消火栓除雪などで、町内会の皆さんの協力を得て実施しています。これらの行事結果については、協議会が発行する「いくせいきょうニュース」を年2回発行しクラブ員全員に配布しています。今後の活動予定は、「防災マップの作成」、「消防活動体験」、「救急救命講習」、そして今年度オープンした千歳市防災学習センター「そなえーる」でいろいろな災害の疑似体験をしながら、防災に関する知識や災害が発生したときの行動を学習する予定です。

に結成しました。

協議会は、現在14クラブが活動しており、夏休みには、スポーツ大会、秋の市民火災予防運動期間中に体験学習、12月に火災予防席書大会、歳末には、火災予防夜回り、1月は、消防出初式への参加など、1年を通して活動を行っています。

モデル少年消防クラブ一覧

今回、次の55のクラブがモデルクラブに選定されました。この創刊号では最初に選定された43クラブの自己紹介を掲載します。その他のクラブは次号に掲載します。

- 北海道(札幌市) 富丘少年消防クラブ
- 北海道(札幌市) 東月寒少年消防クラブ
- 北海道(札幌市) 川沿少年消防クラブ
- 北海道(札幌市) 伏古本町ひまわり少年消防クラブ
- 北海道(千歳市) 真々地少年消防クラブ
- 北海道(小平町) 小平少年消防クラブ
- 青森県(五戸町) 五戸高校少年消防クラブ
- 岩手県(葛巻町) 小屋瀬少年消防クラブ
- 宮城県(気仙沼市) 階上中少年消防クラブ
- 秋田県(能代市) 能代市少年消防団
- 福島県(田村市) 田村市立大越中学校消防クラブ
- 群馬県(中之条町) 中之条町少年消防クラブ
- 東京都(港区) 芝消防少年団
- 東京都(大田区) 矢口消防少年団
- 東京都(世田谷区) 成城消防少年団
- 東京都(豊島区) 豊島消防少年団
- 東京都(台東区) 日本堤消防少年団
- 東京都(府中市) 府中消防少年団
- 東京都(昭島市) 昭島消防少年団
- 東京都(東大和市) 北多摩西部消防少年団
- 東京都(八王子市) 八王子消防少年団
- 東京都(青梅市) 青梅消防少年団
- 東京都(町田市) 町田消防少年団
- 東京都(日野市) 日野消防少年団
- 東京都(多摩市) 多摩消防少年団
- 東京都(あきる野市) 秋川消防少年団
- 東京都(葛飾区) 本田消防少年団
- 東京都(新宿区) 牛込消防少年団
- 富山県(富山市) 富山市立城山中学校少年消防クラブ
- 岐阜県(坂祝町) 坂祝中学校少年消防クラブ
- 静岡県(静岡市) 三番町地区自治会連合会少年少女消防クラブ
- 兵庫県(神戸市) 東川崎防災ジュニアチーム
- 兵庫県(神戸市) ひよどり台防災ジュニアチーム
- 兵庫県(たつの市) たつの少年消防クラブ
- 広島県(府中町) 府中町少年少女消防クラブ
- 広島県(三次市) 6区少年少女消防クラブ
- 徳島県(つるぎ町) 半田中学校少年消防クラブ
- 徳島県(阿南市) 伊島少年消防隊
- 徳島県(鳴門市) うずしお少年少女消防クラブ
- 愛媛県(久万高原町) 久万高原町立 久万中学校少年消防クラブ
- 愛媛県(久万高原町) 久万高原町立 美川中学校少年消防クラブ
- 愛媛県(久万高原町) 久万高原町立 柳谷中学校少年消防クラブ
- 高知県(宿毛市) 片島少年消防隊
- 高知県(梶原町) 越知面少年消防クラブ
- 高知県(黒潮町) 上川口少年消防クラブ
- 福岡県(八女市) 八女市上陽少年消防クラブ
- 福岡県(新宮町) 相島少年消防クラブ
- 福岡県(大野城市) おおのじょう少年消防クラブ
- 福岡県(北九州市) 第東中14区少年消防クラブ
- 福岡県(北九州市) 下曾根少年消防クラブ
- 長崎県(壱岐市) 山崎少年消防クラブ
- 熊本県(高森町) 高森中学校少年消防隊
- 大分県(姫島村) 姫島中学校少年消防隊
- 鹿児島県(伊佐市) 伊佐市大口上中目丸少年消防クラブ
- 鹿児島県(湧水町) 湧水町吉松少年消防クラブ

※ 8, 9, 28, 31, 36, 40, 41, 42, 44, 45, 54, 55 番のクラブ紹介は次号に掲載します。



北海道(小平町) 小平 少年消防クラブ



防火・防災に関する知識や技術を学び地域や家庭内における防火思想の普及を図り、団体行動を通じて規律正しい青少年の育成を目的として昭和54年9月に結成し、昨年30周年を迎えました。現在は42名のクラブ員が所属し、災害のない街づくりを目指して活動しています。



モデル少年消防クラブ

年間の活動内容として、春秋の火災予防運動期間中における高齢者単身世帯への防火訪問をはじめ、歳末防協会副会長でもあります川崎七保五戸町消防団長の働きかけにより、青森県内ではもちろん東北地方でも珍しい高校生の消防クラブが結成されました。クラブ員は21名。うち半分が女性ですが消防に関心のあるメンバーが集まり、初代隊長には将来消防職員を目指す川守田義仁君が就任しました。

青森県(五戸町) 五戸高校 少年消防クラブ

平成22年3月末、日本消防協会副会長でもあります川崎七保五戸町消防団長の働きかけにより、青森県内ではもちろん東北地方でも珍しい高校生の消防クラブが結成されました。クラブ員は21名。うち半分が女性ですが消防に関心のあるメンバーが集まり、初代隊長には将来消防職員を目指す川守田義仁君が就任しました。



秋田県(能代市) 能代市 少年消防団

能代市は、平成19年9月の豪雨災害に続き、昨年7月に豪雨災害が発生し大きな被害がありました。その際、消防団員の地域に密着した様々な活動をおおし、地域消防の大切さを実感し、同時に地域消防をこれから支える人材の育成も必要だと考えました。そこで、能代市では地域

福島県(田村市) 田村市立 大越中学校 消防クラブ

大越中学校消防クラブは、福島県の阿武隈高地の中央部に位置する田村市大越町にある大越中学校の全校生徒158名(男子89名、女子69名)がメンバーとなっています。クラブ長は生徒会会長が務めています。

群馬県(中之条町) 中之条町 少年消防クラブ

中之条町は群馬県の北西部に位置し、人口約1万8、500人、面積は439・28km²、森林が面積の8割強を占める中山間地域です。美しい山々に囲まれた豊かな自然と、温泉をはじめとする恵まれた観光資源や先人の暮らしを今に残す町並みなど、どこか懐かしさと安らぎが感じられる町

東京都(港区) 芝 消防少年団

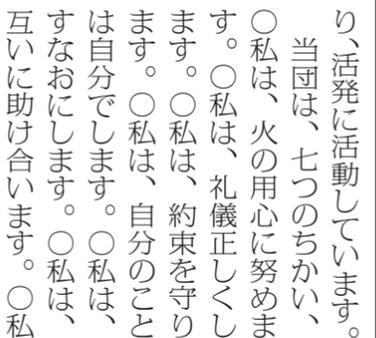
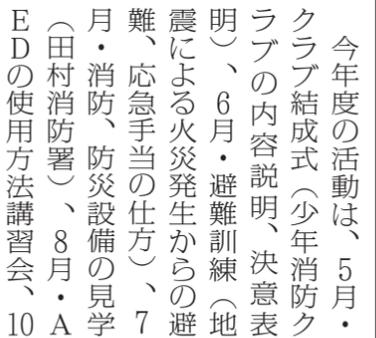
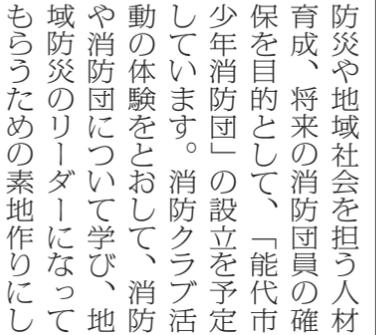
芝消防少年団は、昭和54年3月29日に東京都港区内で最初に消防少年団として発団し、「芝」という歴史と伝統があり、東京タワーがそびえたつ街を舞台に、小学校1年生から中学校3年生まで、81名の団員と20名の指導者で構成されてお

東京都(大田区) 矢口 消防少年団

矢口消防少年団は、昭和53年に発団し31年の歴史があります。望月達夫団長をはじめ13名の指導者、13名の準指導者、41名の団員で構成されています。地元の小学3年生から中学3年生までの子供たちが毎月1回から2回日曜日を中心に活動しています。

東京都(大田区) 矢口 消防少年団

また、平成9年に発足した鼓笛隊による火災予防広報活動や社会福祉施設への訪問等の社会奉仕活動、また、夏のキャンプ等では、団体生活を通じて、お互いに協力し助け合う精神を養い、責任感あふれる人間になることを教育目標として日々励んでいます。



東京都 (世田谷区)
成 城
消防少年団



成城消防少年団は、東京都世田谷区の西に位置し、神奈川県と隣接する地域で、佐久間団長以下指導者16名、団員25名で活動しています。

活動は、初期消火訓練や応急救護訓練等、各種訓練をはじめ、防火防災の広報活動や老人ホーム訪問、夏季キャンプなど様々な知識や経験を身に付けられるよう内容を工夫しています。昨年度は、発団30周年の年にあたり、記念式典には、お世話になった方や地域のみなさんをお招きし、日頃の訓練成果を披露しました。また、8月30日の東京都世田谷区調布市合同総合防災訓練では、消防隊や消防団、ハイパーレスキュー隊と一緒に訓練を実施し、私たちの行ったD型可搬ポンプによる消火活動や救助活動に対し、猪瀬直樹東京都副知事から激励をいただきました。

サブリーダーから厳しい訓練指導を受けました。成城消防少年団の卒団者の多くは、東京消防庁災害時支援ボランティアに登録するなど、地域防災に貢献しています。

東京都 (豊島区)
豊 島
消防少年団

私たちは豊島消防少年団は、小島団長以下9名の指導者と小学校2年生から中学校3年生の少年少女で結成されています。平成22年度は13名の新入団員を迎え、団員総勢51名で活動します。豊島消防少年団の活動の中心となる豊島消防署は、東京都豊島区にあるサンシャイン60のすぐ近くに位置しています。

消防少年団活動は、中学校3年生の工藤隊長を中心として、月1回から2回程度活動しており、年間を通して規律訓練や消火・救急訓練、ロープ結索など、防火防災に関する訓練を実施します。その他には、地域の行事に参加し訓練成果を披露したり、火災予防運動中の広報活動、社会福祉施設の訪問などの社会奉仕活動も行っています。

私たちが一番楽しみにしているのは、毎年7月に実施する1泊2日の野外キャンプ活動です。昨年は山梨県山中湖で実施し、キャンプファイヤーやパン作り体験を行い、団員同士の絆がさらに深まりました。今年度の活動は、モデル



少年消防クラブの名に恥じぬよう、指導者、団員60名で力を合わせて、昨年度以上に気合を入れて頑張ります。

東京都 (台東区)
日 本 堤
消防少年団

日本堤消防少年団は、浅草寺のお膝元、東京都台東区浅草地域で活動しています。浅草の観音様で知られる浅草寺は、連日国籍を問わず多くの人が訪れ、民衆信仰の中心となっており、浅草は昔ながらの人情あふれる下町で、初詣、節分の豆まき、浅草三社祭、ほおずき市などの伝統行事も数多く行われています。当団の特色は、指導カリキュラムに基づく活動はもちろ

ろん、地域のこれらの伝統行事へ積極的に参加していることです。これは、自分たちが住む町の伝統行事に消防少年団活動を通して加

加することで、自分たちの町の伝統を少しでも知り、自分たちは町のためになっていると感じ、自分の住む町を好きになってほしいという指導者一同の願いによるものです。

本団は昨年6月に発団30周年を迎え、今まで以上に明るく元気良く、地域の、そして観光で浅草にいらした皆様に火災予防等と呼びかけるとともに、未来の防災リーダーを目指して活動してまいります。

府中消防少年団は、昭和52年7月にそれまで活動してきた府中少年消防クラブを母体として、東京消防庁で12番目に誕生しました。

東京都 (府中市)
府 中
消防少年団

私たちは長い東京のほぼ中心部に位置し、南には多摩川の清流を臨み、街の中央には千年を超える大國魂神社があり、自然と歴史に恵まれた地域です。

団員は、現在小学3年生から中学3年生までの男女33名で構成され、規律・結索・救助訓練はもちろんですが、全団員は毎年救命講習を受講し、繰り返し訓練で技術の向上を目指しています。消火訓練では、震災時に活用できるようにと、本格的にD級ポンプの操作について訓練しています。このほか、団員が楽しみにしている1泊2日の野外



活動では、より実践的な口の活用訓練や、ペットボトルを利用した水難救助の方法を身に付けるなど、生きた知識となるよう活動しています。

指導者も団員指導のため、応急手当普及員の資格を取得や、災害時支援ボランティアに登録して、防災知識を身につけ、指導力の向上に努めています。

昭島消防少年団は、平成10年12月で、現在船木団長を中心に、団員47名、指導者等17名で活動を行っています。

東京都 (昭島市)
昭 島
消防少年団



昭島消防少年団の発団は平成10年12月で、現在船木団長を中心に、団員47名、指導者等17名で活動を行っています。

私たちが住んでいる東京都昭島市は、都心から西に約35km、東京都のほぼ中心に位置しており、面積約17.3km²、人口11万人を超える市です。

消防少年団の活動では、規律訓練をはじめ、AEDの取扱い、消火器の使い方、災害時の注意事項などについて勉強しています。

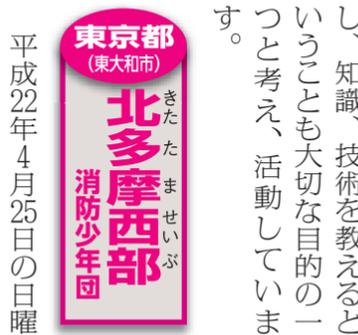
また、昭島市は市の南部を西から東に多摩川が流れており、河川敷における枯草の火災も多いことから、火の用心などの火災予防立

て看板を作成し掲出する活動や、拍子木による年末の火災予防防火パトロールなどを実施しています。

これ以外にも、昭島市や消防署が主催する昭島市総合防災訓練、昭島市消防団出初式、防災体験フェアなどの行事に積極的に参加し、消防少年団の活動のPRを行っています。

団員は小学1年生から中学3年生までと幅が広く知識や体力差も大きいですが、上級生が下級生を支援し、知識、技術を教えるということも大切な目的の一つと考え、活動しています。

東京都 (東大和市)
北 多 摩 西 部
消防少年団



平成22年4月25日の日曜日、北多摩西部消防少年団は、入卒団式と合わせて発団30周年記念式典を挙行しました。

昭和55年3月8日に発団して以来、火災予防運動行事はもちろんのこと、老人福祉施設への訪問、東大和市・武蔵村山市(以後、「両市」という)の総合防災訓練、両市消防団出初式

へも参加し、地域の皆さんとともに歩んできました。今年さらには、「チャレンジ精神を養おう！」とD級ポンプ操法や高所からロープを使って降下するという訓練計画が組まれており、初めて体験する40名の団員たちは、今からドキドキと希望に胸をふくらませています。ともに歩んできた指導者の方は、「時にやさしく?時に厳しい!」皆さんで、消防団の副団長や分団長といった消防団幹部も指導にあたっていきます。

記念式典では、訓練を重ねた規律訓練と結索法を舞台上で披露し、会場を訪れた来賓や父兄からは盛んな拍手を贈られ、式典は終了しました。

毎月実施している活動日には、結索訓練や救急訓練の他に、必ず規律訓練を実施して、秩序ある集団行動の大切さを学んでいます。

次に私たちの主な活動を紹介します。毎年、八王子市で行われる消防団の出初式や水防訓練に参加して、行進の仕方や水防について学んでいます。今年はそのうやレジャーを使って、家の中に水が入ってこないよう訓練を実施しました。夏には、キャンプ活動を通して、火の取扱や炊飯訓練を実施しています。秋の火災予防運動では、市内にある高尾山で、ハイカーの方に山火事と山の事故の防止を呼び掛ける山火事・山の事故防止キャンペーンを実施しています。また、大勢の市民でにぎわう八王子駅北口では、消防署の人たちと協力して、消防車両や消防団音楽隊などが行進する防火パレードに参加し、市民の方に火災予防と防災への備えを呼び掛けています。

その他にも町をきれいにする奉仕活動など色々な活動を実施しています。

今後も、消防少年団の七つのちかいを守って、防火・防災のために頑張っていきます。

は、東京都八王子市内の小学校のメンバーで構成され、少年団員39名、指導者34名の73名からなる少年団です。歴史は古く、昭和54年に発団し、今年で31年目を迎えました。

毎月実施している活動日には、結索訓練や救急訓練の他に、必ず規律訓練を実施して、秩序ある集団行動の大切さを学んでいます。

次に私たちの主な活動を紹介します。毎年、八王子市で行われる消防団の出初式や水防訓練に参加して、行進の仕方や水防について学んでいます。今年はそのうやレジャーを使って、家の中に水が入ってこないよう訓練を実施しました。夏には、キャンプ活動を通して、火の取扱や炊飯訓練を実施しています。秋の火災予防運動では、市内にある高尾山で、ハイカーの方に山火事と山の事故の防止を呼び掛ける山火事・山の事故防止キャンペーンを実施しています。また、大勢の市民でにぎわう八王子駅北口では、消防署の人たちと協力して、消防車両や消防団音楽隊などが行進する防火パレードに参加し、市民の方に火災予防と防災への備えを呼び掛けています。

その他にも町をきれいにする奉仕活動など色々な活動を実施しています。

今後も、消防少年団の七つのちかいを守って、防火・防災のために頑張っていきます。

今後も、消防少年団の七つのちかいを守って、防火・防災のために頑張っていきます。



東京都 (八王子市)
八 王 子
消防少年団



東京都(青梅市) 青梅消防少年団



青梅消防少年団は、東京都の西方に位置する青梅市にあり、市の南側を清流で知られる多摩川が流れ、周囲は御岳山を始めとする山々に囲まれた、自然環境豊かな地域にあります。

当団は、久保団長を始め指導者11名、準指導者6名、団員34名で構成され、毎月2回の少年団活動を行っています。

主な活動は、4月の入卒団式に始まり、青梅市内の清掃活動であるビューティフル青梅や、他機関と連携した水防訓練への参加、一泊で行く野外キャンプ、老人ホームへの訪問等です。また、管内の特性を踏まえ、プールでの水難救助訓練、多摩川での急流救助訓練、さらには、山岳地区の防火パトロールも実施しています。

青梅消防少年団の特色として、鼓笛隊のパレードによる、催し物での広報活動があります。そのため、鼓笛隊の練習も、年間の活動計画の中で、鼓笛指導者である伊澤先生より熱心な指

導を受けています。

地元青梅が大好きな団員たちは、これらも活動を通じて団体活動を学ぶとともに、消防の仕事を知り、防火、防災に関する知識や技術を身につけ、地域の防災リーダーの一員として活躍しています。

東京都(町田市) 町田消防少年団

町田消防少年団は、少年団活動を通じて、少年少女が防火防災に関する知識・技術を身に付けるとともに社会に奉仕する道徳心を養い、責任感ある人間となるための成長に寄与することを目的に昭和53年5月20日に発団、町田市の花サルビアにちなんで「さるびあ隊」と名づけられました。現在は、石坂団長以下18名の指導者と35名の団員で活動し、防火防災の知識や技術を身につけ、5月に行われる発団以来恒例の町田市内を横断して30km歩く、夜間徒歩訓練や8月の野外キャンプで心身の鍛錬と自活能力の向上を図っています。また、山火事防止の看板設置、歳末防火巡回広報、市内の美化運動、老人



福祉施設の訪問等の社会奉仕活動を通じて、お互い助け合う精神を養い社会の一員としての団員教育を行っています。

32年間の活動で約310人の団員が卒団し、それぞれが高校生や社会人として活躍しています。なかには、消防少年団での経験を生かし、町田消防団員として地域の防火防災活動に従事している卒団者もいます。

東京都(日野市) 日野消防少年団

日野消防少年団は、昭和54年2月に発団し、昨年30周年を迎えました。現在は早川忠男団長のもと23名の指導者・準指導者と小学生3年生から中学3年生までの41名で活動しています。水と緑に囲まれ、「新選組」土方歳三のふるさとで知られる日野市で育った団員達は、明るく元気で個性豊かです。

主な活動は、消火法、救急法、結実法、規律等の各種訓練をはじめ、市が主催する「浅川クリーン作戦」、日野消防署・日野市合同水防訓練及び日野市総合防災訓練への参加、高齢者福祉施設の訪問、夏のキャンプや火災予防運動の防火パトロール等、団員が積極的に防火防災の知識を学ぶとともに、規律ある団体行動の中で助け合いと感謝と奉仕の心を身に付けています。本年3月26日には、当消防少年団が全国5、095

の団体の中から優良な少年消防クラブと認められ、「消防庁長官賞(シルバー消太賞)」を受賞しました。

4月18日に平成22年度入団・卒団・進級式が行われ、新入団員10名を迎え入れました。新しいメンバーを迎え伝統ある日野消防少年団の更なる発展を図ります。



東京都(多摩市) 多摩消防少年団

多摩消防少年団は昭和52年5月に団員23名で発足しました。現在は、菅原団長を中心

に指導者16名、準指導者9名、団員31名の計56名で活動しています。「七つのちかい」をモットーに防火、防災、規律、結実、救急等の基本を身につけるとともに、夏のキャンプやもちつき大会、多摩市のイベントで火災予防のP



R、清掃活動などの社会奉仕活動等、年間を通してさまざまな活動を行っています。

昨年度は、D級ポンプ操作訓練や救命講習も行いました。こうした経験が、将来、地域社会で必ず役に立ち、地域の防災リーダーとして活躍してくれることと信じています。

また、少年少女消防クラブフレンドシップ2010において、特に優良な少年消防クラブゴールド消太賞を全国19団体の一つとして消防庁長官から受賞することができました。

長年にわたる指導者を主体とした積極的な活動が評価されたもので、その喜びを受賞後すぐに多摩市長に報告し、市長とともに改めてうれしさをかみしめました。今年度は輝かしいスタートとなり、指導者、団員一同、はりきっています。

東京都(あきる野市) 秋川消防少年団

秋川消防少年団は昭和55年に発団し、山や川など自然豊かな東京都の秋川地区(あきる野市・日の出町・檜原村)で育った子供たちで構成されています。

団員は地域の方々に見守られながら、防火防災の知識・技術を身につけるとともに、思いやりや社会に奉仕する心や友情を育んでいます。発団後30年あまり、規律ある団体活動のなかで地域に貢献する責任感のあ

る青少年を育成してきました。また、団長は「絆、和、友情」の三つの言葉を掲げ、恩愛で、おだやかに、友情を大切にすることの方針としています。その言葉どおり団員たちは、団結し、お互いに助けあう心を常に忘れません。



林道や登山道に山火事防止広報の看板を設置したり、山岳救助訓練など、地域に密着した活動もあり、団員も団長の方針のもと元気にすくすくと活動しています。そして、地域の環境美化活動や社会福祉施設訪問など、地域への奉仕を目的とする活動を積極的に行っています。

今後も地域に密着した活動を行い、地域の防火防災のリーダーとして活躍できるように活動していきます。

東京都(葛飾区) 本田消防少年団

本田消防少年団は、昭和51年11月、東京23区で3番目に発団しました。現在は、小学生7名、中学生8名の計15名(男子8名、女子7名)で活動しています。当団の特徴は、団長・副団長、指導者、準指導者28

名の大半が当団の卒団員であることで、自らの団員経験を活かして指導にあたっています。今年4月には、副団長(祖母・指導者(母)・初級団員(長女)の親子3代の在籍が実現しました。主な活動内容は、団員としてふさわしい態度を身につけることを目的とした規律訓練を始めとして、地震や火災から身を守る方法についての学習、防災マップの作成、消火器・D級可搬ポンプによる消火訓練、三角巾やAEDによる応急救護訓練、ロープによる結実訓練等を行っています。また、入・卒団進級式、夏季キャンプ等の野外活動、火災予防広報活動、防火風の作成や防火クリスマス会等の行事を通して、地域の方々に火災予防を呼びかけています。

付けることは、将来にわたって自他の安全を確保し、生命を大切にすることにもつながります。

SSKとしての主な活動は、火災や地震を想定した防災訓練と自衛消防訓練、及びボスター掲示による啓発活動などです。訓練では、消火器を使用した初期消火、消火栓を利用した放水訓練なども行っています。また、3年生を中心に救命救急訓練も実施しており、消防署からは普通救命講習修了証を交付されています。様々な訓練は子ども

の防災意識を高めるとともに、命の大切さを学ぶ機会となり、危機予知能力や危機回避能力を育て、安全な生活につながります。また、訓練活動を通して仲間意識が育っています。



富山県(富山市) 富山市立城山中学校少年消防クラブ

城山中学校少年消防クラブ(以下SSK)では、訓練や啓発活動を通して防火に関する知識や技能を身に付け、防火意識の高揚を図っています。地震や火災が起きた際に安全に避難する能力を身に



付けることは、将来にわたって自他の安全を確保し、生命を大切にすることにもつながります。SSKとしての主な活動は、火災や地震を想定した防災訓練と自衛消防訓練、及びボスター掲示による啓発活動などです。訓練では、消火器を使用した初期消火、消火栓を利用した放水訓練なども行っています。また、3年生を中心に救命救急訓練も実施しており、消防署からは普通救命講習修了証を交付されています。様々な訓練は子ども

の防災意識を高めるとともに、命の大切さを学ぶ機会となり、危機予知能力や危機回避能力を育て、安全な生活につながります。また、訓練活動を通して仲間意識が育っています。



岐阜県
(坂祝町) **坂祝中学校**
少年消防クラブ

坂祝中学校少年消防クラブは、昭和44年に発足し、以来約40年間に渡り先輩たちから受け継がれてきた伝統のあるクラブです。発足当時は、男子生徒のみで構成されていましたが、今では1・2年の代表者(希望制)で構成され、その中には女子生徒も参加しています。現在、全校生徒数224人のうち、13人が所属しています。

クラブ活動の最大の行事は、年初めに行われる消防出初め式です。町主催の行事に一般の消防団と共に参加し、小型ポンプ操法を披露します。この晴れの舞台に向け、毎年12月になると、可茂消防事務組合中消防署の隊員の方から、小型ポンプ操法の指導を受け、放課後、日が暮れるまで訓練を行います。当日は、消防服に身を包み、きびきびとした姿が見る人にさわやかさと防火意識を高揚させ、大きな拍手に包まれます。

このほか、夏休み中に開催される岐阜県少年消防クラブ運営指導協議会主催の少年消防クラブリーダー研修会にも参加し、そこで学んだことを、定期的に行われる校内避難訓練時に全校に報告することで、全校の防災意識を高めています。



有志により「東川崎防災ジュニアチーム」が発足しました。発足以来、毎月1回地道にポンプ操法、応急手当法等の防災活動を行い、ジュニアチームの修了者数は延300人を超えています。平成22年度は平成15周年を迎え新たな取り組みに意欲を燃やしています。

兵庫県
(神戸市) **東川崎**
防災ジュニアチーム

阪神・淡路大震災の教訓として、安全で安心して暮らせるまちづくりを進めるためには、地域住民が中心となる人材を育成することが不可欠です。そこで、神戸市では、市民、事業所、行政が協力しあって、福祉活動や防災活動に取り組む『防災福祉コミュニティ』事業を推進しています。

このような経緯から結成された東川崎防災福祉ふれあい結成されました。そして同年8月、神戸市で2番目の防災ジュニアチームとして中学生を中心に結成され、毎年6月の任命式から、翌年3月まで、毎月1回、防災活動に取り組んでいます。



あいのまちづくり協議会防災部会は、結成後、地域防災力向上のために様々な活動に取り組んできましたが、担い手の高齢化という課題に直面しました。このままでは『震災で得た教訓が風化してしまふ』という危機感を持った私たちは、地元中学生とともに防災活動に取り組むことで、将来の地域(防災)の担い手を育成し、違う世代とふれあうことで中学生の社会教育につながることを、地元中学校に発案したところ、関係者の暖かいご理解とご協力を得て、平成8年11月、

兵庫県
(神戸市) **ひよどり**
防災ジュニアチーム

平成13年1月、安全で安心して暮らせる地域を目指し、また阪神・淡路大震災の教訓を忘れないことを目標に、神戸市北区にてひよどり台防災福祉コミュニティが結成されました。

平成21年度は中学生男子97名、女子60名に小学生5名を加えた162名がジュニアチームに登録し活動を行っています。活動内容としては、救急訓練、消火・放水訓練、プールでの水難訓練、災害図上訓練のほか、デジタルマップ作成や防災しおりづくりを行いました。



くりに行いました。また防災活動以外にも民生・福祉グループと共同で「災害時要援護者」の「見守り活動」など福祉分野での活動や、地域のイベントの支援を行うなど、地域コミュニティの推進、活性化の役割も担っています。また、中学校を卒業した生徒の組織として、防災ジュニアOBチームの結成に向け取り組みんでいます。

兵庫県
(たつの市) **たつの**
少年消防クラブ

平成10年7月18日に発足し、12年を迎えます。現在のメンバーは、小学1年生から小学6年生までの37名です。今後も子供たちの防災予防思想の指導と健全な育成を行っていきます。



「1 私達は防火の知識を学習し、火の用心に努めます」「2 私達は約束を守り、礼儀正しくします」「3 私達は自分のことは自分でし、お互い助け合います」を3つの約束として、少年少女期に、火の怖さ、火の大切さを認識させるとともに火災発生時のメカニズム、火災の原因、消火の方法、避難の方法などを学習し、正しい防火知識を身に付けることによって、命の大切さを学び、規律や礼儀なども併せて身に付けることを目的として活動しています。

体験学習、山火事防止看板を作成し山裾に設置する火災予防活動、関西国際空港消防署等の管外視察研修、消防団・婦人防火クラブと一体となって市民まつりパレードに参加しての地域住民へのPR活動などです。

広島県
(府中町) **府中町**
少年少女消防クラブ

平成16年3月に消防庁長官から表彰され、平成21年3月には特に優良な少年消防クラブと認められ、同長官から表彰を受けました。平成22年1月に、社団法人日本損害保険協会が主催するぼうさいマップコンクールに応募し、全国から1、389点の作品の中で優秀賞15点に選ばれ、「まちのぼうさいキッズ賞(ユネスコ賞)」を受賞しました。

当クラブの活動が、火災予防思想の普及を中心としたものだけにとどまらず、今後は、防災、救急救命技術の取得など、その活動の枠を広げていくとともに、将来の地域防災を担う人材を育成していくという観点からも、高校生のクラブ参加を積極的に推進していきたいと思っています。

伝い、防災センターの見学、防災マップの作成、山林パトロールや山火事防止の看板作成、キャンプ、スキー研修など1年を通じて活発な活動を行っています。当クラブは、年間を通じての活発な活動が評価され、平成16年3月に消防庁長官から表彰され、平成21年3月には特に優良な少年消防クラブと認められ、同長官から表彰を受けました。

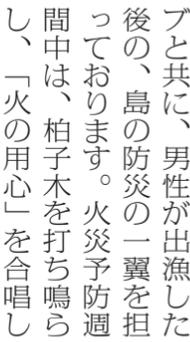
徳島県
(つるぎ町) **半田中学校**
少年消防クラブ



伊島は、徳島県阿南市の海岸線から東方約6kmの紀伊水道に浮ぶ、周囲9.5km、82世帯、人口195人の四国東端の島です。産業はイセエビやアワビ漁等からなる漁業が中心です。白亜の灯台がシンボルで、灯台に続く道には、イシマサユリが優雅な花を咲かせます。周囲には無数の荒磯があり、シーズンには太公望の絶好の釣場となっています。離島である伊島は、荒天の時などは何日も島外との交通が途絶したことから、住民同士で助け合う共助意識が昔から自然と身に付いた土地柄です。

徳島県
(阿南市) **伊島**
少年消防隊

伊島少年消防隊は、昭和57年に結成し、伊島小・中学校の生徒で構成されており、伊島婦人防火クラブと共に、男性が出漁した後の、島の防災の一翼を担っており、火災予防週間中は、柏子木を打ち鳴らし、「火の用心」を合唱しながら夜間パトロールをしています。また、海岸の清掃活動、イシマサユリの保護活動等、先輩たちから受け継ぎ伝統行事として続けています。



伊島は、徳島県阿南市の海岸線から東方約6kmの紀伊水道に浮ぶ、周囲9.5km、82世帯、人口195人の四国東端の島です。産業はイセエビやアワビ漁等からなる漁業が中心です。白亜の灯台がシンボルで、灯台に続く道には、イシマサユリが優雅な花を咲かせます。周囲には無数の荒磯があり、シーズンには太公望の絶好の釣場となっています。離島である伊島は、荒天の時などは何日も島外との交通が途絶したことから、住民同士で助け合う共助意識が昔から自然と身に付いた土地柄です。



徳島県(鳴門市) うずしお 少年少女消防クラブ

「うずしお少年少女消防クラブ」は、四国の東の玄関口・徳島県鳴門市の鳴門西地区を中心とした小学校4年生から中学校2年生までの男女約50人で結成した「少年消防クラブ」です。鳴門西地区は、かつては塩田で栄えましたが、塩田廃止後宅地化が進み、新興住宅地として人口の移入が進んでいます。

当地区は平成7年1月17日の阪神・淡路大震災で多大な被害を受け、また、南海地震の発生が予想されることから、平成15年に地区自主防災会を結成し、消防分団・婦人防火クラブの活動などとともに災害に備える住民の意識は高いものがあります。



モデル少年消防クラブ



今回の結成もそうした住民意識の高まりの中で、「将来の地域防災、さらには地域社会を担う人材の育成」という趣旨に賛同し、地域と学校と消防団の三者が連携し、地域に密着した「少年消防クラブ」の運営を目指すのであります。今後は、学校や行政だけに頼らない三者が一体となつて、「少年消防クラブ」の結成目的を果たすよう活動を推進したいと思ひます。

高知県(宿毛市) 片島 少年消防隊

片島少年消防隊は高知県の西南端、宿毛市(面積286・11km²、人口2万3、103人)にあり、昭和58年に防火意識の高揚を目的に、地元の小生で剣道やソフトボールのクラブメンバーらによって構成されており、結成以来27年間歳末



には夜警巡回を行い、地域住民への防火を呼びかける運動をはじめ、救急法の学習や出初め式にも参加するなどしており、今後は消防署での体験学習なども計画しております。

福岡県(八女市) やめしじょうよう 八女市上陽 少年消防クラブ



八女市上陽少年消防クラブでは、平成22年度から小中一貫教育校上陽北洲学園(リーダー)を結成しました。

すべてのクラブ員は、小学校5・6年の2年間を通して、町歩き防災マップ作成や水難泳法教室また地域での行事に積極的に参加するなど、基本的な防火・防災に対する意識付けを行ってきました。今回、モデル少年消防クラブへの選定に伴い、今までの活動で得た知識と技術を生かし、更なる技術の向上のため実践的な実技体験学習や救急法の習得を目指し活動していきたいと考えています。その他、5・6年生で構成された少年消防クラブ員としての自覚を持

ち、小学生の見本となる人材の育成を行いたいと考えています。現在クラブ員は10名ですが、更なる募集に伴う増員をはかり、地域一体となつて少年消防クラブの活動の充実を目指します。

福岡県(新宮町) あいのしま 相島 少年消防クラブ

平成22年4月22日(木)、福岡県糟屋郡新宮町の町立新宮中学相島分校において、新1年生1名を迎え平成22年度の入団式を実施しました。この結果、クラブ員は5名(全校生徒)となりました。

新宮町は福岡県の北西部に位置し、南西側は福岡市と隣接し福岡都市圏のベッドタウンとして人口は増加の一途をたどっている一方、相島は玄界灘に浮かぶ離島で、玄海国定公園の一角をなし周囲約8km、面積1・25km²で、本土まで約8kmのところの位置する小さな島で産業の中心は漁業です。平成22年3月末の人口は361人、156世帯で年々減少傾向にあります。相島では大人たちが漁に出るため、中学生の間で



「自分たちの島は、自分たちで守ろう。」という気運が高まり、昭和23年自治体消防制度発足と同時に「相島少年消防クラブ」が誕生しました。クラブの活動は盛んで小型ポンプによる消火訓練、毎日の夜回り活動等を通して島の防火を担っています。

福岡県(大野城市) おおのじょうよう 少年消防クラブ



大野城市では今まで少年消防クラブは存在していませんでしたが、青少年の育成と将来の消防団員の確保につながるなどが期待できることから、以前より設立したいとの要望があがっていました。

今回のモデル少年消防クラブの募集があり指定を受けることができたことから、早期の設立に向けての準備を行っているところであります。対象者は市内の小中学校4年生から中学3年生までとして、幅広く参加を呼び掛けているところです。また、将来的には高校生にも参加を呼び掛けることを予定しております。設立後は消防団が主体となり、春日・大野城・那珂

川消防組合消防本部と協力しながら様々な活動をする予定しています。具体的には6月の市総合防災訓練への参加、7月の消防署体験入署・レスキュー体験、8月の宿泊を伴う避難所生活体験、11月は秋季火災予防運動に合わせた活動、1月は消防出初式への参加、3月は春季火災予防運動に合わせた放水訓練などを予定しています。

福岡県(北九州市) だいがしな 第東中14区 少年消防クラブ

福岡県北九州市若松区で活動している、第東中14区少年消防クラブは、「訓練を通して敏速な行動、規律、命の大切さを学ぶ」という事を目的として、平成17年に若松区第東中14区自治会育成部の活動の一環として発足いたしました。以来年間6〜7回の訓練を若松消防署ご協力のもと行う他、地域の防災マップ作成、防災訓練への参加、年末夜警パトロールなども行っています。平成21年3月には「平成20年度優秀な少年消防クラブ」の福岡県知事表彰をいただきました。

隊員は赤崎、小石小学校区の小学1年生から中学3年生まで、毎年約40名で活動します。今年度は第6期生が訓練に励みます。訓練内容は訓練式に始まり、消火器取り扱い訓練、119番通報訓練、心肺蘇生法、AED取り扱い訓練、梯子車搭乗訓練やレ



また、春休みには、閉講式の後、自治会からバーベキューのプレゼントがあり、隊員たちは、とても楽しみにしています。中学生の隊員は、シニア隊員として今まで学んできたことを活かし、後輩たちの指導的立場となり、クラブ活動の活性化の一翼を担っています。

福岡県(北九州市) しもそね 下曽根 少年消防クラブ



下曽根少年消防クラブは、九州の北端に位置します福岡県北九州市小倉南区で活動を行っています。北九州市立下曽根小学校の子ども会に所属する4、5、6年生で組織しています。現在、29名の児童が校区の自治会や小倉南消防署の皆

様にご協力やご指導をいただきながら火災予防や救急活動等の研修を行っています。

創立は昭和56年、今年で29年目になります。児童数の多い年は、50名を超える参加がありました。少年消防の影響もあり参加児童が減少傾向にあることが課題です。

活動は年に4回、夏休みには市内の特色ある消防署等を訪問し、施設見学や消防艇乗船体験など有意義で楽しみのある一日を過ごしております。

また、冬休みには年末防火パトロールを行いながら、一人暮らしの年長者宅を民生児童委員さんとともに訪問し、火災予防を呼びかけるなど、クラブ員で勇気づける「声かけ運動」を行っています。

毎年、野外炊飯や消火体験など様々なプログラムを工夫し、思い出に残り価値あるボランティア体験の場を設定しています。



長崎県
(壱岐市) **山崎**
少年消防クラブ

山崎少年消防クラブは、昭和10年筒城山崎触少年夜警団として結成、その後、昭和47年に常備消防発足し、それを契機に昭和51年4月1日山崎少年消防クラブとして改名しました。

当クラブの所在地は、長崎県の離島、吉岐の島の東南に位置し、漁村地区特有の密集地であり、一旦火災が発生すると延焼危険が非常に高い地域です。

当地区では、郷土愛護の精神と自主防災の大切さを自覚し「自分たちの地域は自分たちで守る。」という、強い信念を持ち、これまで続いた伝統ある夜警活動を受け継ぎ、少年たちが火災予防の重要性を認知し、防火に対する広報活動を行っています。

現在のクラブ員は、中学生5名、小学生2名の計7名で、毎週(日・月・水・金)4日間、風雨寒暑を問わず午後8時より夜警活動を行い、地域住民からも強い信頼を受けています。

また、この活動に対し優良な少年消防クラブと認め



られ、全国少年消防クラブ運営指導協議会より表彰盾を授与されました。

これまでの実績を評価され、昨年7月、欧州のチェコ・オストラバで開催された「ヨーロッパ少年消防オリンピック」にも、当クラブ員5名が代表選手として選ばれ、日本代表として参加しました。

熊本県
(高森町) **高森中学校**
少年消防隊

平成22年5月22日(土)、熊本県阿蘇郡高森町の高森中学校グラウンドにおいて平成22年度体育大会が開催され、そのなかで高森少年消防隊による「通常点検」が実施されました。



体育大会の中で通常点検が実施されるのは本校では初めてのことでした。

本校の保護者でもある渡邊博実高森町消防団副団長を点検者に迎え、3年生男子全員26名で日常の練習の成果を多くの来賓、保護者、地域の方々の前で披露しました。

1月に行われた高森町出初式では、部活動の試合などが重なり半数以上の生徒たちが参加できませんでした。

た。極寒の中、消防署の方たちの指導を受けながら練習していた生徒たちには、練習の成果を全員で見せられなかったという心残りがありました。ですから、体育大会という場で成果を見せられるということは大変うれしいことであり、気分十分に臨む姿がありました。

期待したとおり、生徒たちは佐藤奎也隊長の指揮の下にきびきびとした動きを見せ、会場の大きな拍手を受けました。通常点検を終えた生徒たちはとても誇らしげでした。

今後は下級生に活動を引き継ぎ、上級生としてサポートをしていきます。

大分県
(姫島村) **姫島中学校**
少年消防隊

大分県姫島村は、国東半島の北5kmの海上に浮かぶ、周囲17kmの沿岸漁業と、車えびの養殖を主な産業とする大分県唯一の1島1村です。

姫島中学校少年消防隊は、昭和29年2月に発足しました。当時は常駐の消防署はなく、大人の男子は漁業、女子は畑仕事に従事し、人家は、年寄り子どもという現状でした。

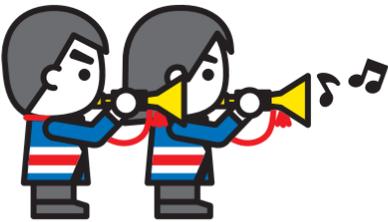
そこで、非常事態に迅速に対処でき、体力も有り、また、学校運営に取り入れることにより、教育効果をも、十分発揮できるという点から創設されました。隊員は姫島中学校1・2



年生の男子で編成します。目的は「1 規律ある団体行動により、秩序ある生活活動を養う」「2 学校を中心として、地域社会における火災予防活動の実践に努める」「3 消防活動の技術、要領の体得を通して敏捷性、協力性、正確性等を養い、人間性の育成を図る」を主な目的としています。

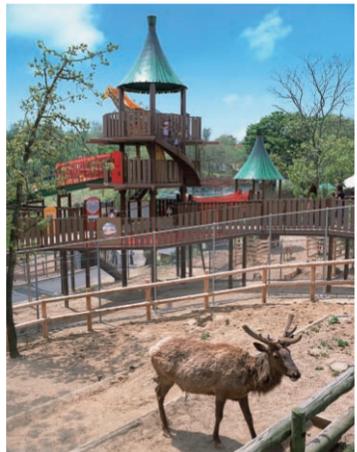
毎年1月17日に行われる、姫島村消防団特別点検では人員服装点検、停止間の小隊訓練、放水点検など、消防団と同じ点検内容で、消防長(藤本村長)の点検を受けます。

少年高齢化が進む中、島にとって頼もしい存在です。



明日へつづく夢・宝くじ♪

宝くじの収益金は、子どもたちの遊び場をはじめとする街づくりなど、みなさまの暮らしに役立てられています。



(この遊具「アソヴェの森」(秋田市大森山動物園内)は、宝くじの普及宣伝事業として設置されたものです。)

当せんはしっかり調べて、しっかり換金。
財団法人 **日本宝くじ協会**
http://www.jla-takarakuji.or.jp

●外国発行の宝くじを、日本国内において購入することは、法律で禁止されています。

